

# 災害、その時何ができるか

## 自主防災を考える

災害が起きたら・・・

(防災訓練の様子)



▲バケツリレーで初期消火。自宅のバケツや風呂おけを使った連携プレー



▲消火器は、火の根元目掛けてしっかりと

### 災害に備えて

災害が起きると、通信手段や交通手段が絶たれ、消防隊や救助隊がすぐに到着できない場合があります。そんな時、自分たちで初期消火や救助活動を行い、被害を最小限にとどめるために作られているのが、町内会や自治会など地域の方たちによる自主防災組織です。自主防災組織では日ごろから、地域の消火栓の点検や防災マップの作成、防災訓練などを行い、いざというときに地域の皆さんが冷静に行動ができるよう備えています。

### 災害時の行動を学ぶ

澄川地区は、自主防災活動に力を入れている地区の一つです。「地域の安全は地域で守ろう」と防災資機材を備えたり、防災訓練を毎年開催したりして地域の防災意識を高め

ています。七月二十日に開催された防災訓練には、約四百五十人が参加。バケツリレーや消火器での初期消火、倒壊家屋からの負傷者救助など、さまざまな訓練を行いました。

「災害が起き、大勢の人がパニックになっている中で、訓練を経験したことのある人が、どれだけ動けるかが大事だと思います。今日は、消火器や放水ホースを実際に使用し、使い方を学ぶなど、貴重な経験ができました」と話すのは、二度目の訓練参加という勝井邦雄さん。「どんな行動をしたら良いかを考えながら、訓練を重ねることで防災への理解が深まりますね」と訓練の必要性を実感していました。

### 助け合いの心を

災害が起これば、地区会館や学校の体育館などでの避難所

災害が起きたら・・・あなたはどうしますか？  
慌てず、冷静に行動することができずか？  
いざという時に、被害を最小限にとどめるためには、日々の備えが大切です。  
そのために知っておきたいこと、必要な対策をきいてみましょう。

生活を余儀なくされた場合、避難所の運営は自分たちで行わなければなりません。

八月三十日に南沢地区を会場に行われた南区防災訓練では、初期消火や救急救命訓練のほか、避難所の運営訓練が行われました。参加者は、徒歩で自宅から避難所に集合することで、実際の避難経路や所要時間を確認。その後、参加者の中で、災害の状況を把握する総務班や負傷者の応急処置に当たる救護班などの役割を分担し、避難所での協力体制、救援物資の使い方や応急手当での方法を学びました。

熱心に応急手当講習を受けていた参加者の高島紀子さんは、「南区には年配の方が多いため災害が起きたら、避難や救助をするのが大変です。そんな時に、お年寄りの経験を生かした知恵と若い人たちの力でお互いに助け合えると

避難所では・・・  
(避難所運営訓練の様子)



▲大勢の住民が詰め掛けた避難所では、お互いの協力が必要です



▲総務班は災害状況・避難状況の情報収集